

令和3年11月9日

東京都千代田区四番町5番地3  
科学技術振興機構（JST）  
Tel：03-5214-8404（広報課）  
URL <https://www.jst.go.jp>

## ムーンショット型研究開発事業における プロジェクトマネージャー公募について

JST（理事長 濱口 道成）は、ムーンショット型研究開発事業において、内閣府総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）の決定に基づく新たなムーンショット目標8および目標9について、その目標達成に向けた研究開発を推進するプロジェクトマネージャー（PM）を公募します。

ムーンショット型研究開発事業は、超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題に対し、人々を魅了する野心的な目標（ムーンショット目標）を国が設定し、挑戦的研究開発を推進すべき分野・領域などとして文部科学省により定められた研究開発構想に基づき、研究開発を推進するものです。JSTでは、すでに決定された7つのムーンショット目標のうち、4つのムーンショット目標を担当し、その達成を目指した19の研究開発プロジェクトを推進しています。

一方、日本は新型コロナウイルス感染症の影響により、今後の社会が急速かつ著しく変容していくことが想定されます。ポストコロナ／アフターコロナ時代における社会像を明確化し、目まぐるしく変化する経済社会情勢に対応すべく、JSTは「新たな目標検討のためのビジョン策定（ミレニア・プログラム）」において、新たなムーンショット目標のアイデアを具体化・精緻化する21件の調査研究を推進しました。その調査研究の結果を踏まえて、最終的に以下の2件がCSTIにより新たなムーンショット目標として決定されました（参考）。

JSTは、それぞれのムーンショット目標に関する研究開発全体の責任者であるプログラムディレクター（PD）を以下の通り任命し、プロジェクトマネージャー（PM）は、PDの下で、ムーンショット目標達成および研究開発構想実現に至るシナリオの策定、研究開発プロジェクトの設計、研究開発体制の構築、研究開発プロジェクトの実施管理などを行います。令和3年11月9日（火）～令和4年1月11日（火）正午まで、ムーンショット目標ごとにPMを公募し、PDが外部専門家らの協力を得ながらPMを選考します。

PMを公募するムーンショット目標およびPDは以下の通りです。

- (1) ムーンショット目標8「2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現」  
(PD（就任予定）：三好 建正（理化学研究所 計算科学研究センター チームリーダー）)
- (2) ムーンショット目標9「2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」  
(PD：熊谷 誠慈（京都大学 こころの未来研究センター 准教授）)

### <添付資料>

別紙：ムーンショット型研究開発事業におけるプロジェクトマネージャー公募の概要  
参考：ミレニア・プログラムの概要および新たなムーンショット目標の決定経緯

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 挑戦的研究開発プログラム部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町

犬飼 孔 (イヌカイ コウ)

Tel : 03-5214-8419 Fax : 03-5214-8427

E-mail : moonshot-koubo[at]jst. go. jp

※電子メールでお問い合わせください。

## ムーンショット型研究開発事業における プロジェクトマネージャー公募の概要

### 1. 事業の趣旨

超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題に対して、国が定めた人々を魅了する野心的な目標（ムーンショット目標）の達成に向け、挑戦的研究開発を推進すべき分野・領域などとして文部科学省により定められた研究開発構想に基づき、研究開発を推進します。

### 2. 事業の特徴

ムーンショット目標に関する研究開発全体の責任者であるプログラムディレクター（PD）の下、プロジェクトマネージャー（PM）は、ムーンショット目標達成および研究開発構想実現に至るシナリオの策定、研究開発プロジェクトの設計、研究開発体制の構築、研究開発プロジェクトの実施管理など（以下、「PM活動」という。）を行います。

採択されたPMは、PDの助言・指導の下、研究開発プロジェクトの作り込みを行い、研究開発の体制を含む、研究開発プロジェクトの詳細計画の立案および、PMの雇用主たる機関（代表機関）による支援体制を構築します。PDにより、作り込みの内容が妥当と認められた場合には、研究開発プロジェクトの実施が可能となります。なお、作り込み期間はPMの採択後、原則約3カ月以内とします。

研究開発プロジェクトは、PMの指示に基づき、課題推進者が分担して実施します。このため、PMは可能な限り高いエフォートで専らPM活動に従事することを応募の要件とします。ただし、研究開発プロジェクトの一部の研究開発をPM自らが実施することが成果を得る上で極めて効果的であるとPDが判断した場合は、課題推進者として研究開発に参画することを認める場合があります。

### 3. 公募期間・PMを公募するムーンショット目標

<公募期間>

令和3年11月9日（火）～令和4年1月11日（火）正午

<PMを公募するムーンショット目標>

#### (1) ムーンショット目標8

2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現

(PD(就任予定): 三好 建正(理化学研究所 計算科学研究センター チームリーダー))

#### (2) ムーンショット目標9

2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現

(PD: 熊谷 誠慈(京都大学 こころの未来研究センター 准教授))

### 4. 提案の受付方法

<応募方法>

「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）」により受け付けます。

府省共通研究開発管理システム（e-Rad）ポータルサイト

URL <https://www.e-rad.go.jp/>

<公募要領、選考スケジュール、公募説明会>

詳細は下記ホームページを参照してください。

公募要領などの公開は11月9日（火）10：00を予定しています。

URL <https://www.jst.go.jp/moonshot/koubo/>

## 5. 公募に関するお問い合わせ先

科学技術振興機構 挑戦的研究開発プログラム部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町

E-mail : moonshot-koubo[at]jst.go.jp

※電子メールでお問い合わせください。

## ミレニア・プログラムの概要および 新たなムーンショット目標の決定経緯

新型コロナウイルス感染症を受けた社会情勢の変化を踏まえ、今後の時代を担う若手の柔軟かつ自由なアイデアを取り入れながら、「ポストコロナ／アフターコロナ」を見据えた将来の社会経済のあるべき姿（ビジョン）を議論し、新たなムーンショット目標を検討する「ミレニア・プログラム」を令和3年1月から7月にかけて実施しました。

このプログラムに採択された21の目標検討チームは、およそ6カ月にわたる調査研究期間を通じ、ビジョナリーリーダーの指導・助言の下で、実現したい2050年の社会像や目標の明確化、目標達成に向け取り組むべき課題とシナリオ（2030年の達成目標などを含む）、検証可能な目標達成基準などを、調査研究報告書<sup>注1)</sup>に取りまとめました。この報告書を受け、各報告書の関連研究分野における外部専門家の協力を得て、ビジョナリーリーダー<sup>注2)</sup>が評価を実施しました。

評価結果に基づき、2件のムーンショット目標候補案をJSTが内閣府総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）に提示しました。その後、CSTIによる審議を経て、9月28日に開催されたCSTI本会議において、「2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現」「2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」が新たなムーンショット目標として正式に決定されました。

注1) 調査研究報告書については、以下URLよりご覧いただけます。

<https://www.jst.go.jp/moonshot/program/millennia/team.html>

注2) ビジョナリーリーダーは以下の通りです。

総括：渡辺 捷昭（前 トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長）

副総括：

足立 正之（株式会社堀場製作所 代表取締役社長）

天野 浩（名古屋大学 未来材料・システム研究所 教授）

久能 祐子（S&R財団 理事長（米国）、

Halcyon 共同創設者兼理事（米国）、

京都大学 理事（非常勤）

目標名	ミレニア・プログラムにおいて 当該目標の設定に貢献した目標検討チーム
<p>【ムーンショット目標8】 2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現</p>	<p>●タイフーンショット (チームリーダー：筆保 弘徳(横浜国立大学 教育学部 教授))</p> <p>●気象制御可能性検討チーム (チームリーダー：三好 建正(理化学研究所 計算科学研究センター チームリーダー))</p>

<p>【ムーンショット目標9】 2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Psyche Navigation Systemによる安寧・活力共存社会実現チーム (チームリーダー：熊谷 誠慈 (京都大学 こころの未来研究センター 准教授))</li> <li>●サイバー空間の次世代コミュニケーションインフラ構築による世界の中で誰も孤独を感じないウルトラダイバーシティ社会の実現 (チームリーダー：岡田 志麻 (立命館大学 理工学部 准教授))</li> <li>●西本MS音楽感動共創プロジェクト (チームリーダー：西本 智実 (指揮者・舞台演出／慶應義塾大学 SFC研究所 上席所員))</li> </ul> <p>協力：秋山 肇 (「チーム ポスト・アントロポセン」 チームリーダー、筑波大学 人文社会系 助教)</p>
--	--